

● 特別支援学校の誘致について  
昨年4月、県立特別支援学校の誘致・開校がかないました。私は市長就任以来、一貫して障がい者問題に取り組んできました。県に学校の開設をお願いする原動力は、障がい児をもつお母さん方の熱意でした。それまでは高崎市内の学校への送迎だけでも、多くの労力と時間がかかっていました。今後は高等部の誘致に取り組みます。「困っている人に光を当てる」これは私の信条です。

● 群馬医療福祉大学の誘致と今後の連携について  
大学の誘致から5年が経ちました。看護学部の卒業生が、藤岡総合病院をはじめ市内の病院に勤務されています。その飛行機の発展に力を注がれました。現代に置き換えるべき人々から学ぶことは多いと思っています。

● 藤岡の偉人について  
60周年の区切りに、藤岡の偉人たちに光を当てた事業を行いました。だれもが知っている和算の大聖・関孝和翁は、和算という大変難しいものを江戸期に研究されていました。航空学者・堀越二郎翁もしかりで、日本の飛行機の発展に力を注がれました。現代に置き換えるべき人々から学ぶことは多いと思っています。

#### ● 群馬医療福祉大学の誘致と今後の連携について

大学の誘致から5年が経ちました。看護学部の卒業生が、藤岡総合病院をはじめ市内の病院に勤務されています。その飛行機の発展に力を注がれました。現代に置き換えるべき人々から学ぶことは多いと思っています。



## 「市長のこれから取り組みについて」

● 少子高齢化と人口減少化社会の到来に対して  
これは大変大きな問題です。その対策は広範囲にわたりますが、特に若い人の働く場所をつくっていくこと、地方はどんどん人口が減ってしまいます。高校を卒業して進学や就職により県外に出で行かれた若者から、藤岡で就職を希望しているという声を多く聞きます。その度に「働く場所を確保してあげなければいけない」と強く思います。企業誘致や雇用創出のための施策はこれからもしっかりと取り組んでいきます。もう一つは健康ですね。高齢者の筋力トレーニングを市内全域で行っていますが、高齢者にはやはり元気でいてもらいたいです。教育、雇用、健康これらの問題が上手く一緒に対応できると、その都市の力がぐっと伸びると思っています。

● 東日本大震災と大雪の経験を活かして  
地震は予兆も無く突然訪れますので、だれでも常に意識を持っていかなければいけません。また、昨年のような大雪は今後も起こりうると思いますので、その対応を盛り込んだ地域防災計画を見直しています。大雪で一番困るのは道路の除雪です。昨年は土木建設業の方々に大変お世話になりましたが、これからも連携を密にして、いざという時には早期に取り掛かる体制を整えておくことが大切です。市民の安全と安心をしっかりと確保することが、行政の最重要課題です。

● 観光について  
高山社跡をはじめ桜山、ふじの咲く丘など市内の観光地は、世界の名だたる観光地とは違います。だからこそ、継続してお客様に来ていただける施策を考えています。誘客には英語圏や中国、東南アジアにも目を向けていきたいです。市内や周辺の観光施設を周遊してもらう仕組みも大切だと考え、隣接する神川町との連携も進んでいます。そこで必要になってくるのが新橋です。観光連携協定を締結して、国や県と話し合ってきました。今年は関係する市町で期成同盟会を組織して、国や県と話し合ってきました。大きな効果が期待できますので、しっかりと取り組んでいきます。

● 公立藤岡総合病院の統合について  
外来棟と入院棟が離れた場所にあることによる患者さんの不便を解消し、医師や看護師さんの働きやすい環境もつくりうるということが統合に向かう大きな要因でした。財政的に厳しい面もありますが、今年から建設工事に入り着実に進めています。

● 市民活動のまちづくりの推進について  
最近、協働という言葉がいろいろな場面で行政の中に出でてきます。昔から行政と市民、団体は協働してきましたが、再認識する意味で文章にしたり、具体的に協働したりしています。藤岡の市民は温かい気持ちの方が多いでありますから、市がこなうやつでいきましょうということに理解をいただいて、協働してまちづくりが行えていると思っています。今後もこの協働をさらに深めていくことで、住みやすいまちづくりが進んでいくと確信しています。

# ふじおかトーク 「市民とともに歩む ふじおかの未来」

## 市長インタビュー

藤岡市長 新井利明

藤岡市は昨年、市制施行60周年を市民総出で祝いました。昨年を振り返ると共に、藤岡市の現在、未来に向けた取り組みを新井利明市長に聞きました。

昨年は、藤岡市の長い歴史の中でも一つの節目の年でした。記念式典、花火大会などの記念事業は、市民や各種団体の皆さんに実施委員会をつくってもらい多くの意見をいただきながら実施することができますが、皆さんのご理解があつたからだと感謝しております。

昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあるなど感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにしたか知らないのですが、皆さんのご理解があつたからだと感謝しております。

昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあるなど感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにしたか知らないのですが、皆さんのご理解があつたからだと感謝しております。

昨年は、藤岡市の長い歴史の中でも一つの節目の年でした。記念式典、花火大会などの記念事業は、市民や各種団体の皆さんに実施委員会をつくってもらい多くの意見をいただきながら実施することができますが、皆さんのご理解があつたからだと感謝しております。

昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあるなど感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにしたか知らないのですが、皆さんのご理解があつたからだと感謝しております。

昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあるなど感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにしたか知らないのですが、皆さんのご理解があつたからだと感謝おります。

昨年一年間を通して、